京都教区時報

第138号
田中司教認可
毎月1日発行

発行　京都司教区　発行責任者　村上透磨
編集　京都カトリック教理センター　住所 京都市左京区仁王門通新高倉東入　Tel 761-9095

ナイスを終えて一年 －ナイス代表者から－

みんなであるこう ウォーカソン

第2回滋賀 11月23日(水)　京都北部 11月23日(水)

ナイスを終えて一年……　ナイス代表者から

「日本の教会を見直そう」という、公会議に匹敵するナイスを終えてほぼ一年経ちました。あれから私達代表者は、各小教区や団体を分担してナイスの報告に参りました。その折主任司祭を始め信徒の皆様が予定や時間を変更し熱心に参加して下さったことに代表者一同を代表して感謝致します。

私達代表者は、自分達の職場でフルに活躍しながら準備会合を重ね、誠実に責任を果して来ました。

私個人は代表者事務局の責任を仰せつかりながら、充分にその任務を果せなかったことを深くお詫し、同時に会場その他の準備、接待の為に寛大にご奉仕下さった修女連、婦人会、その他有志の方々に、又終始ご支援下さったナイス準備委員会に深く感謝致します。

Sr.田北　陽

今、私たち一人一人の願い、希望

良いお手本にならなくちゃ

下平美砂

教会の外を一歩出ると、町は悪い価値観であふれんばかり。（教会にもあったりして）『職場で信仰を生きるには』の難しさを今感じている。ナイスに出席して「教会は社会の良心となろう」この言葉に一番感銘を受けた。神様の子供として実践するゾ！と意気込んで会社へ行くのだが「私はそうは思いません」のひと言が言えない。「硬い子やなぁ。カトリック信者はバカ正直や」という声が戻って来そうで。けれど、日曜日だけ信者のふりをすることをもう私は出来ない。ナイスの意味がなくなるから。主よ、弱い私を許し、勇気をお与え下さい。道具として働きたいのです。

共に歩むされど一人で

岩崎章太郎

全国会議のあと、ナイスを実のあるものにするために各レベル（司教団・教区・小教区）で推進のための具体案づくりが必要だと思いますが、同時に信者一人一人の意識の変革も迫られています。

教会がよくなるために、と他人に話したり活動を行う信者は多いのですが、一方で、自分を変革しようと祈ったり、そのために行っ

たりする信者は少ない。私もその人だと思います。

キリストはいつでも、私自身の変革を求めているように思えるのです。私が実際に変ることはとても出来ない相談だ、と言いたいほどむつかしいことです。でもその自分を変えない限り、教会も変って行かないし、まして社会はなおさら変らないと思います。

社会の福音化は小教区の中に

J・ルーニイ

京都のビジョン又ナイスに照らされて、一番強調されているのは共同体作りではないかと思います。

小教区は福音宣教共同体にならなければならない。福音宣教をする小教区となるのは簡単なことではありません。社会の福音化は小教区の中に生れます。本音や苦しみを分ち合える小教区になるには相当な時間が必要です。又信頼にもとづいた親密な分ち合いや、本音を言えるためには当然、人数の問題があります。一つの小教区は一つの分ち合える共同体にはなり得ません。人数的に……。それで小教区の中に分ち合える小グループの制度を作らなければならない、小教区の中の小共同体と言うことになります。10年前、自分の小教区の中で信仰を分ち合える小共同体を作り始めました。毎週みことばの祭儀に参加し、又毎週感謝の祭儀の中でみことばの分ち合いをします。又月1回各小共同体は自分達の信仰の歩みを分ち合うために集ります。みことば・典礼・兄弟との交り、を基本にした10年前からの体験があります。言いたいことは、本音を分ち合える共同体になるには時間がかかります。

今後の展望・願いなど

J・ラッキー

ナイスの『答申』によって司教、司祭、修道者、信徒全員が共に学ぼうと進められています。又、本音で話し合うこと、そして司祭と信徒が互に相手の立場を理解しあって、もっと協力をしたり共に行動をしたりすることも進められています。小教区であるいは、小教区以外の活動に加わっている司祭達と、そのグループのメンバーが社会問題、典礼、祈り、人間関係等を共に学ぶことができれば、本音での話し合いがだんだん出来るようになると思います。もし、皆んながそのつもりで積極的にやるならば……。

各小教区でやっている話し合いの内容を教区の皆さんに伝えるのは、あまり効果を期待できないと思います。同じ地域のいくつかの小教区の代表者と希望者が定期的に会合を持つ方が有益だと思います。そうすれば、今までどおりに司祭達、修道者、そして一般の信徒のグループは継続して、自分達に、関係ある問題を考えたり、活動したりすることでしょう。それはいいことですし必要です。

年に一、二回各地で信徒が皆（司教、司祭、修道者や一般信徒）集って、共通の問題や教区全体の問題を話し合うことも又、必要です。

現在一、二回の集まりで各グループに（例えば壮年、婦人、青年、司祭等）は他のグループに自分の主な計画、活動をなんらかの方法で伝えあうことが大切であると思います。もし、以上のことが出来ましたら、ナイスの求めているような教会に少しずつ近づくことが出来ると思います。

今後ナイスをどう生かすか

鈴木幸子

ナイス開催に至るまでに、あらゆるグループが学び合い、語り合って多くの意見を提出されました。その全国のまとめを私は興味深く読み、どの柱も結論は互いに養成され合う必要があるということだったと思います。故に司教様も「共に喜んで生きよう」とまとめ投げかけられました。私たち三重代表2人とナイス青年書記達がチームとして、司祭方及び各小教区代表の方々の御協力を得て、三重で7つの教会を巡ることができ、どの教会も熱心に聞いてくださいましたが、ほんの一部分しか伝えられないもどかしさが残りました。でも「今後継続的に学び合い、生かし合いたい。」という共通要望が、嬉しい明日への希望を感じさせて頂きました。しかし現実は、各小教区の役員さんは教会行事で忙しい、ではこのブロックで、小教区の壁をのり越えてどのような学び合いの場が生まれて来るのか神様が何を望まれるのか、祈りながら待つ今日この頃です。

ナイス―私の願望

田北　陽

ナイス報告のために、各小教区を廻って感じたことは、青少年の信仰教育を含めて自分達の信仰生活について真剣に取組んでいることです。しかしその努力に比して信仰の喜びや感動があまり表われていなかったのが印象に残っています。掟の遵守や教会活動への参加で自他の信仰の深さを計る傾向があり、それらを完全に果せないがために自分を責め他に厳しくなり、次第に信仰が喜びよりも重荷となっているように見受けました。「喜びをもって」の部分は本当に大きな課題です。自己の内部から湧き出る喜びが「共に生きる」原動力となるのですから。教区で行う養成の中で信仰者としての自己確認に力を入れることが私の心からの願いです。

共に生きる福祉活動とその人材の養成を

一条紀彦

NICEはさまざまな問題を提起していますが、その答えは私達が作り出していくものだと思います。人間の尊厳、企業の論理、自然環境、平和、アジアの人々との連帯、これらの現実を福音と結びつけて意識しながら生活していくのは難しいことかもしれません。

「快適な生活」を求めていろいろな物に目がいきますが、何か用意されすぎているようで大事なことを知らず知らずのうちに失っているような気がしてなりません。私達にとって「快適な生活」とはどんなものかを問われている時だと思います。特に社会との関わり、生きている人々との関わりのなかにその答えは見い出されるのです。してあげるという意識は関わりのなかから生れるものではありません。今後期待するのは共に生きる福祉活動であり、その人材を養成する教育です。そのためにも教会の様々な活動が一致協力していく時が来ていると思います。特に若い力が活かされていきますように。

ともかく第一歩を踏み出すことから

花井拓夫

司祭・修道者の研修会が6月に津で開かれました。この研修会で全国会議を受けて、前進するため努力目標を作ることになりました。

わずかの日程ですからすべてを扱うことができませんでしたので、具体化しやすそうな第3の柱「福音宣教をする小教区」を選びました。

実現可能な努力目標ができたことは出来たのですが、これをどう実行していくのか、どこまで進んだのかのチェック機関がありません。話し合っただけに終わってしまう可能性もあります。前進するためにどうしたらいいのか、それはどこからでもいい。ともかく第一歩を踏み出すことではないでしょうか。

お互いの声の届く共同体を築くために

仲川久代

ナイスに参加して、日本教会の新たな胎動にふれ、今思うことは、「共によろこび……」にみられるように、教会のあるべき姿、共同体の大切さを改めて認識出来たことです。

各々の家庭、地域、小教区でどのように共に関るか、よろこびと苦しみ痛みをもふくめて……。昔から変らず信者の間で「本当に苦しい時は教会に行けない」と言われています。信者の「うめき」が出しにくい体質はまだ根強いことは確かです。お互の声のとどく共同体をきずく為に人事を尽くし

（全信者の草の根的な意見の集結である十四の提案）天命（共にいてくださる神の働き）を待つ心境です。

私達の共通理解であるキリストを通して、日々の生活の中で御父の恵みに答えて行きたいと思います。

私のビジョン

G・ラバディ

先ずナイスの方針作りの相談にあずかり、その後、多くの教会を訪れて、信者達にナイスのプログラムについてお話し出来た事は、私にとって大変有意義な体験でした。ナイスの方針こそ、今後、日本カトリック教会が、もつべき姿を示し、喜びを感じ、社会と共に歩むように努力する事以外、ほかに道はないと確信してきました。そうしないと、教会はだんだん衰えてゆく恐れがあると心配しております。ところが、難しい問題があります。というのは、今でも、前バチカン公会議の考え方をもち、それを考えたくないとか、考えても安心出来ないと思っている多くの司祭はじめ、信徒たちがいるという印象をもっております。私の夢ですが、なるべく早く全教区の司祭達と信徒達も歩調をそろえて、ナイスのプログラムの実現に着手してもらいたい。ところが、どの運動の場合も、先頭に立つ個人やグループがなければ始まらないように、先ず、ある小教区の司祭と信徒たちが何か具体的に動き出し、他の小教区の方々に対して、模範になって、せめて、自分の行動によって「無理だ」という消極的な雰囲気を少しずつ、変えてゆくことが出来るよう望んでいます。

一人一人の関わりを深めながら

中井雪子

命を愛される主よ、すべてはあなたのもの、あなたはすべてをいとおしまれる。知恵

神によってそっくり愛され、神の命に活かされている私達は、たえず命を新たに創られる生きる神との出合いによってこそ「ともに喜びをもって生きよう」とのメッセージを具体的あかしをもって生きるものに変えていただけるものと信じ希望しています。

愛の火をなげるため、此の世に来られたキリストは宣教にもえておられた。たえざる回心のうちに、もっと謙虚になって特に老人、病人、幼児は教会の宝と確信し、一人一人がかけがえのない神の似姿として大切にされる関わりを深めながら、聖母とともに神の無償の愛をあかしてゆく使命にはげんで参りたいと願っております。

南信協のアンケートから

中川浩永

ナイス全国会議での答申の結果、司教団より「共に喜びを持って歩もう」に依る指針が示されましたが、私達元京都ナイス代表者や、その関係者は、小教区を主体とした、分ち合い方式に依る報告会としましたが、多くの文章に依るナイスの紹介よりも、直に肌に触れると言うことが、今迄ナイスがよく分らなかった方々にも分って頂けたと思います。

ただ私達訪問者が、その時感じた反応だけでなく、報告会を開いた人達からの試みとして南信協でア

ンケートや意見を聞いて見た結果は、①分からなかった部分やナイスが身近に感じた。②福音宣教で何をすれば良いか考える必要の有る事。③またこのままでは一過性のものになってしまうのでは無いか、と言う心配、その他希望としては、ナイスについての懇談会や説明会、合宿等の計画を実施してほしいと言う御意見も有ります。

全国会議にも参加した人をも加え、早くナイス推進するメンバーをつくり、ナイス実施に邁進するべきだと思います。

たくさんの疑問について
指導と導きを

A・ロペス

昔の話ですが、2人の負けた兵隊は、疲れ果てて家に帰る途中で、飢え死にしそうだったそうです。ある村に入って次から次へドアを叩いても何か食べさせようともしてくれなかった。兵士達は急いで、餓死しないため、何か工夫しなければいけない。これは村の人たちに知らせるために広場で立って大声で叫んだ。「石のスープをここで誰か食べたことがあるのか……そうです。石のスープ。」村の人たちはこれを聞くと驚いて、好奇心のため、ぶつぶつとドアを開けて外を覗いて、いよいよ兵士達のところまで近寄って来ました。「そうです。石のスープを食べるのは、なんて美味しいことですよ……」兵士は繰り返すと「さ、さっそく作って見せてくれ」誰かが頼んだ。

しかし、石があるけれどもスープを作るために鍋と焚き木が当然必要です。若者2人はすぐそれを運んで来ました。「もちろん、お水と……野菜と少しでもお塩もあれば……石のスープに味付きます」と。百姓の一人は家から持って来ました。」その時も鍋の中はお湯がゴロゴロと煮えたぎっていたのです。「しかし、本当のおいしい石のスープを味わいたいならば、チョビットでもお肉……なんてありがたいことだろう」喜んで年を取ったおばあさんは走って持ってきてくれました。それから大分立ってから、皆、兵士達も、美味しく温かい石のスープを喜びの内に食べたそうです。

NICEは1年前すみましたが、準備の時さまざまな大変苦労なさった人は多いでしょう。教会の中にはこの全国会議を行うためにはアレルギーと無関心もよくありました。教会の中には言葉が多いけれども「言うは易く行いは難し」という意見も多かったと思います。司教団は、日本の教会の基本方針と優先課題の中にはこう語っています。（このように、過去10年間、4つの指針が司教団によって出された。）（「社会に福音を」「日本における宣教について」「日本の社会の福音化を目指して」「洗礼の恵みを一人でも多くの友に伝えよう」が、直接宣教の促進と社会の福音化が2本柱となっている。しかし、これらの指針は、教会全体に浸透せず、したがって、約40万のカトリック教会の全員が一体となった協力態勢はまだ出来上がっていないのが現状である）

それなのに、会議は幸いに行われました。小教区は報告を聞いた時、初めて、NICEは皆で作った会議だったと分かって喜びました。自分達からでた意見を会議で大事にしてくれた。そして、司教団はそのあらゆる意見についての返事が「共に喜びをもって生きよう」とありました。共に作って、共にディスカッション、共に生きよう、というNICE後の喜びを私は確認しました。

報告した時、グループの話の中には一般に興味が結構あったと思います。まとめとして3つのポイントをアンダーラインを引いて置きたいのです。

1つのポイントは、NICEを通して日本教会は誰だ、どこにあるのか、どんなものですか、私達は少しでも理解できたと思います。初めて日本教会は自分について神学を作った。これについてオールド・チャーチからヤング・チャーチに進む1つのステップでした。

もう1つのポイントは、NICEの未来に向かって私達は、信徒として何をすればいいのだろう。嬉しい嬉しいと言ってもこれは未来の教会の歩みになにもならない。何か具体的に教えて下さい、という意見が多かった。情報伝達の手段を早く確立して下さい。

その3番目のポイントは、NICEは社会の問題について広く取りましたが、あわただしいやり方であったような感じがします。色々な問題にはまだ全然触れていませんし、例として身体障害者のこと等。

取りあえず、まだ色々な疑問が残っています。信徒がそれについて指導と導きを希望しています。

臨時宣教司牧評議会報告

資料収集委員会、何でも相談室
アジア交流基金について司教に答申しました

'88年7月9日～10日

ナイスと50周年を終えて数多くの提案がなされた。これ等を検討する様にと、司教の要望を受け、7月9日10日両日、臨時総会を開いた。その報告書の主な点をここに報告させていただく。

7月臨時総会議事録要旨

報告事項

1、ナイス報告会

1月から始まった報告会は7月をもって一応終る。50教会約4000人の人々が報告を聞いた。尚この報告会に約30名の青年も参加した。

2、平和の歩み（1982～1988）年間に行った特に学習会のリスト提出。

3、アジアの教会の交流基金（仮称）

この準備委員会のメンバーの承認があったので早速、名称、理念、募金方法についてたたき台を作成。

議題　I部

1、補助金審査委員会付帯意見について

内容的に多人数の討議はむずかしいのに、常任委員会に委託する。

2、資料収集委員会について

種々討議の結果次の事を採決

各様は資料委員会とし、以下の常任委員会（4月22日）案に賛成する（時報No134 P2）

同委員会のメンバーは

▼50周年委員会、教区事務所とは別に新しいメンバーで発足する常任委員会承認のメンバー。

Sr小野（マベール）島田氏、佐伯氏河原町。

▼委員は必要に応じて増す。

▼任期は委員会で検討する

新しい委員会として

▼委員会の目的性格を明確化する。

▼今後の継続、資料整理、収集、保管方法を検討する。

▼各小教区から資料を確実に集められる体制作り。

▼委員が交替しても継続できるようにしておく。

▼宣教司牧評議会とコンタクトをとる。

3、青年センターの設置

青年グループから話し合われた内容の説明とその討議に入った。

この内容について別に報告させていただく（時報No135 P7）

(1)理念(2)機能(3)構成(4)財政(5)事務局設置場所についてにわたるものであったが、

理念機能についてはほぼ賛成。

他について常任委員会で検討。

4、何でも相談室

先の常任委員会で4段階の取組みが提案された。

▼資料の整備（手引きとなる様な小冊子作成）

▼その資料を小教区、修道院、施設、事務所等に送る。

▼電話で対応出来る人の講習会。

▼将来専従者をおく。

何でも相談室の内容、多様をよく討議する必要がある。

結論

(1)資料を作成し、配布する。

(2)資料の小教区への浸透方法については常任委員会に一任。

5、アジアの交流基金

設立準備委員会による検討された提案が報告されたが、これは4月22日の常任委員会報告（時報No134）に基づくものである。

詳細について別紙報告したい。

尚設立準備委員会報告　趣旨は

I設立趣旨　II理念　III資金作り

以上の議題の中

1.資料収集委員会

2.何でも相談室

3.アジア交流基金については7月10日付け、司教に答申した。

議題　II部

今回の主な議題は「パイプのつまり」4つのグループに別れ討議。

1、発題　ミスター渡辺（ドミニコ）

教区ビジョン　50周年　ナイスは一直線上にある。したがって、ナイスからの提案の実行は、ビジョンの見直しとしての優先三課題（時報No123 P2～No125 P2）No129 P6～P7 No131 P3～50周年の諸提案（No129 P6・No131 P3～P4）を実践することにより示される。

さてナイスの提案（ともに喜びをもって生きよう）を見ると、どの柱にもこのパイプのつまりについて語られている。この問題を検討し解決に向うことこそ今教会の要請されている事である。

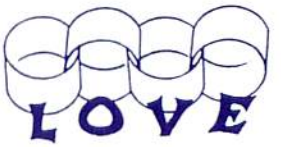
との主旨説明と、パイプのつまりを検討する事に意味が述べられた。

四つのグループの報告を全部、のせる事は紙面上無理と思われるので、全体の意見をまとめたものを図式化してみることにする。（次号）

尚、136号のパイプのつまりの図もその一つである。

これは継続審議とし次回常任委員会及び臨時司牧評議会（11月5日～6日）で尚詳しく検討する事になった。

（文責　村上透磨）



開かれた教会づくり―社会問題と取り組む種々のグループ紹介―

アジア修道女会議とは？？？

みなさまの訪問をお待ちしております

カトリック会館6階の西側、突き当りには、アジア修道女会議（AMOR・アモールと読みます）秘書局があります。この秘書局では京都教区所属の善きサマリア人会・メリノール会・ノートルダム教育修道女会と聖霊のシスター計5人が働いています。秘書局自体は、とても、とても小さい場所ですが、やっている事、やるべき事は、アジア／オセアニア17ヶ国のことに留らず、又修道女の範囲だけでなく、女性全般の意識化、地位の向上の為等、地球規模の大きさを持っています。主な仕事を先ず御紹介しますと、AMOR（2、3年に一度、17ヶ国のどこかで、約2週間程集まって開かれています）によって選ばれた常任委員によって運営されています。AMORでの決議、提案が、各国で遂行されるよう、種々の企画をします。今年の11月1日から11日迄、第8回AMORがタイのバンコックで開かれます。又年4回機関紙（AMORニュース・レター）を発行し、主として、アジア／オセアニアですが、広くは、ヨーロッパ、アメリカ等の、コミュニケーター、アニメーターの役割をしています。世界の正義と平和の為にも尽力しています。

私たちの仕事の中から、2・3、具体的に紹介させていただきます。私たちが日頃心にかけております仕事の1つに、「じゃぱゆきさん」のことがあります。大阪教区におられる、1人のフィリピン人のシスター（仮にSrAとします）と常に連絡を取りながら、間接的ですが、「じゃぱゆきさん」の救済をお手伝いしています。短大の先生をしながら、タガログ語と英語を話せるSrAは、苦しみに直面しているじゃぱゆきさんの所へ飛んでいき心身両面で助けの手をさしのべておられます。どこへ行くにも、交通費の高い日本では、大変なことです。タガログ語を話せない私たちスタッフは、直接には、話を聴いたりする事は出来ませんが、せめて交通費の一部とか、入院費の一部をお助けしようとします。でも17ヶ国からの年間たった100ドルずつの会費で運営している秘書局には、到底支出する事は出来ません。そこで、色々な団体に、趣旨を説明しお願いに廻わります。使わせていただいた寄付金については、後日、お礼と、何の為に使わせていただいたかを御報告に伺います。数年前から、「じゃぱゆきさん救済」が続いています。

又眼を南アフリカに転じますと、皆様もよく御存知のように、「アパルトヘイト（人種隔離政策）」の現状が世界に報道され、日本は、世界のどの国よりも多くの物を南アフリカに輸出して利益をあげています。「アパルトヘイト」に対しては、積極的に何もせず、かえって間接的にそれを助長しています。アパルトヘイトが大手を振って横行している中で、現地の修道女たちが数人逮捕され、独房に入れられているというニュースを入手した私たちは、早速、英文による釈放の嘆願書を、ボタ大統領と法務大臣宛に作成し、教区内の修道女方に、署名をお願いし、意図的に一日数通ずつ、幾週間にもわたって、郵送しました。その結果、一人の修道女は釈放され（一ヶ月後に病死）、一人のシスターは、まだ独房に入れられたままですが、シスター所属の修道院院長だけは、月1回の面会が許されるようになりました。

「焼石に水」のようなことが多いですが、でも、私たちは「塵も積れば山となる」ことに希望をおき、小さい秘書局ですからこそ、偉大な神に助けを願いつつ、日々努力しています。

これをお読み下さる方々の中で、金銭的に御援助下さる方がおられましたら、カトリック会館6階、アジア・サービス・センター迄御持参下されば幸いです。秘書局は、毎月水金、AM10～PM5迄開いています。地の利がいい事もあり、秘書局はいつも千客万来です。訪問して下さる方々には、紙面では到底表わしきれない、例えば、「じゃぱゆきさん」の事など、いつも色々聴いていただいております。

読者の皆様に、実際にお目にかかれる日を、心待ちにいたしております。

文責　Sr　児玉
（ノートルダム教育修道女会）

青年センターがやって来る

あんてな

『あの盛り上りはどこへいったんでしょうねェ？』これはあれ以降あちこちでよく聞く台詞です。これはきっとあの時に播かれた種子が芽を吹き『もっと大きくなりたいよう！』と私達に働きかけて言わせている様な気がします。

私達はあれを通じて2つの喜びを知りました。一つは心を合わせて形にする喜び。もう一つはそれを多くの人と分ち合う喜び。あの時の地下聖堂でのミサはそれが最も良く表わされたと思います。

あのミサは私達の可能性の一端を見せてくれた様に思います。私達には何かが出来る！ということを教えてくれました。あれ以降、各ブロックでいろんな動きが生まれつつあると聞いています。

と同時に今いち力が入らないという様な話も同時に入ってきます。一人一人と話をしてみると『こんなことがやりたい』『このことを皆に知って欲しい』とか一杯いいものがあるのに、それが個人もしくは数人のレベルで留まってしまっている様に見えます。

なんでかな？

あの時はNICE&50周年という状況が交流を促進させて、多くの出会いを作ってくれていました。一人の発想が皆に伝わる場が多くありました。イベントとしてNICE&50周年が終ってもう一年が過ぎようとしています。あれを機に、それぞれの日常の中で新しい何かが生まれていると思います。でもそれをどうしたらいいのかわからない人も多いと思います。

一人の心が生かされる、一人の壁を越える為の、NICE&50周年に代わるシステムが必要に思います。

そこでだ!!

今、教区青年センターの設置に向けて準備が進められていますが、もっと多くの人の関わりを必要としています。大切なことは青年センターを作ることではなくて、心を一つに出来る、心を形に出来るそんなセンターになる様に皆で育てて行くことだと思います。皆で歩き出す時がそこまで来ています。

おくれないで!!

丹後合同青年会　ぞーさん

あんてな

ありがとう でも…（報告会を終えて一言）

聞きたくないので耳を閉ざされるなら、せめて見てくれませんか。いや見る事の方がもっとめんどうだ、とするとこの文はもっと読まれないだろう。ああ……

ナイスの代表者の報告会も終えて代表者の方々の思いを書いていただきました。これでナイスは終ったのではなく、まさにはじまったのだ。そして地味だけど、時には気づかぬうちに具体化がはじまっている事もわかってきました。だけど時々、はがゆくなったり腹が立ったり。何故それを他に報せないんだろう。何故分かち合わないんだろう。そのために時報を使っていただいてよいのに……。

ああきっとみんな奥ゆかしくて謙遜なんだろう。でもその奥ゆかしさがまたくせもの。悪く言えば、無関心で、自分中心的なんだよなと思ったりもするのです。何か言っても伝わらないのは、伝える側に問題があります。確かに。でも初めから桶に蓋した様な聞き方もあるでしょう。聞きたくないから耳に栓することもあるでしょう。見たくないから避けて通ることもあるでしょう……。

いやそうでなくてたぶん、何の悪気もないが無関心もある。不注意もある。気づかないこともあるで、それで結構楽しく平和に過して来ましたものね。ところがふっと気づいてみたら、自分達が社会から取りのこされている。社会と教会の遊離じゃなくて信仰と生活の遊離じゃなくて、むしろ教会が社会から取りのこされ、信仰が生活から捨てられてしまって、そうだと気づいたんじゃなかったでしょうか。

そこでこれでは大変だとナイスをやった。（ビジョンも作った。）そこで一生懸命考えて、祈って「ともに喜びをもって生きよう」なんてナイスからの指針が生れた。

その報告をしに行った。紙だけでなく口で伝えようとして。代表者青年書記団大変でしたね。

さてその結果どうなるんでしょうね。今よりサマリア人の喩話の事考えています。近よって問題に触れてくれる人、沢山出来たかなと言う。やや悲観的なおもいも。

近よってパイプの栓開けて水を豊かにお飲みください。

ちょっとあなたも
ちょっとわたしも (14)

お知らせ

教区スケジュール

11月

3日(祝)京都ウォーカソン
　田辺教会バザー
6日　西陣納骨堂秋季合同慰霊祭
　流配者慰霊祭(大和郡山)
7日　司祭評議会
13日　希望の家バザー
18日　SVP理事会
18～20日信徒使徒職養成コース
　典礼I(売布)
20日　教区創立一斉記念ミサ
　親交会例会
22日～12/2日みことばをかこう絵
　画展・書道展
23日(祝)びわこウォーカソン
27日　衣笠教会堅信式

▼聖書深読入門の集い

日時　11月19日(土)～20日(日)
場所　宇治カルメル会黙想の家
指導　奥村一郎神父
費用　5、000円
持参品　聖書、筆記用具他
▼先着26名（11月11日締切）連絡先TEL078(851)2686本村まで(PM8時以降)

クリスマスチャリティーコンサート
―鴛渕紹子によるパイプオルガンの夕べ

日時　12月1日(木)PM7時30分～
場所　河原町カトリック教会
プログラム
　トッカータとフーガヘ長調(バッハ)
　オルガンのためのアンダンテ(長調(モーツァルト)
　中世風組曲／前奏曲／リチェルカーレ風
　即興曲／瞑想／歓呼(ラングレ)
　ソナタ第3番イ長調(メンデルスゾーン)
　クリスマスを祝して／クレブス、ブランク、レーガー他
　朗読　神谷ルリ
主催　京都いのち電話事業委員会
後援　京都新聞社会福祉事業団
　福祉の風土づくり推進協議会

インドへ友愛の手を！
慈善演奏会

日時　12月2日(金)PM7時～
場所　京都こども文化会館大ホール
演奏者　ヴァイオリン　橋本寿子
　ソプラノ　東　朝子
　ピアノ伴奏　田口はるみ
曲目　ヘンデル「9つのドイツアリア」より
　ベートーヴェン「ヴァイオリンソナタ」
　シューベルト「ます」「楽に寄す」他
　中田喜直「あなたとわたし」他
入場料　2、000円(当日売2、300円)
問合せ先　東朝子☎075-781-2049

帰天

J・シュレーリング師（67歳）
　唐崎教会主任司祭
　10月6日早朝
マリア児玉三子様(84歳)
　9月15日
　Sr児玉(ノートルダム会)ご母堂
マリアヘレナ和田うめ様(92歳)
　9月23日
　Sr和田(ノートルダム会)ご母堂
グレイス・ソーティ様(82歳)
　10月12日(米、セントルイス)
　Srアンドレ(ノートルダム会)ご母堂

▼講演会のご案内

日時　11月19日(土)PM4時～6時30分
場所　カトリック会館6F会議室
テーマ　天皇の代替とキリスト教
講師　千葉宣義(ひろよし)師(同志社大学宗教主事)
入場料　無料
主催　日本女子修道会総長管区長会
　アジア活動推進委員会(TFA)
協力　アジア修道女会議事務局(ASC)

黙想会のご案内
―主と共に分かちあうひととき

日時　11月26日(土)～27日(日)
場所　ウィチタ聖ヨゼフ本部修道院
対象　青年男女
指導　静一志師(フランシスコ会)
費用　3、000円
申込み　11月20日まで☎かハガキで
〒616右京区竜安寺御陵ノ下町1
　ウィチタ聖ヨゼフ本部修道院内
　天春(あまはる)まで☎075(462)0754

みんなでつくろう！
元気になるミサ

日頃、気になっているミサについて、いろいろな点をお互いに分かち合い、手作りのミサで共に祝い、ミサを生きてみましょう。

日時　11月23日(祝)AM10時～PM4時
場所　〒606京都市左京区下鴨中川原町110
　カロンデレットの聖ヨゼフ修道院
対象　どなたでもご参加下さい
参加費　500円(昼食代含む)
申込　Srグレイス斉藤まで☎075(781)0669
共催　カロンデレットの聖ヨゼフ修道会
　南信協青年部
　京都カトリック教理センター

各地でウォーカソンの輪が広がっている。どこもなかなか風光明媚な場所が選ばれている。秋空の下ちょっとのんびり歩いて、日頃のあわただしさの中からちょっぴり脱出。自然の中で黙想。いいこといっぱいですね。（い）